

「松山学」による定時制高校生の地域に関する認識の向上と課題解決

松山高校高梁ふるさと再発見プロジェクトチーム

活動の目的

高梁市は江戸時代の山田方谷などの偉人や豊かな自然など地域として誇れるものが数多く存在している。一方、近年の過疎化により人口減少は大きな問題であり、平成30年の西日本豪雨などの災害への対策も必要である。

松山高校は高梁市立高校であるが、地域の歴史や文化、自然のことについて知らない生徒が多い。また、自分に自信のない生徒も多く、他人とのコミュニケーション力が低い。このため「松山学」という学校設定教科を立ち上げ、その中に地域の実態を理解し、課題の発見や解決を模索する「高梁とわたし」、地域の自然を理解し、課題研究を通してプレゼンテーション能力を高める「高梁のしぜん」の2つの科目を設定した。この2つの科目を通して高梁市の魅力について理解し、地域の課題について考え、その課題をまとめることで、自らの問題としてとらえることを目指した。

活動の内容及び経過

科目「高梁とわたし」を地歴・公民の教員が、「高梁のしぜん」を理科の教員がそれぞれ週2時間行っている。本校は夜間高校であり、授業は夜間に行われているが、数回行った野外実習のみ昼に行った。

「高梁とわたし」では年度前半は高梁市長をはじめ、地域の方々を講師として招き、高梁の魅力や課題について学習を行った。年度後半は生徒一人一人が課題について現地調査や関係機関との連携などを行い、学習の成果をレポートとしてまとめた。

「高梁のしぜん」では教科書作りを通して高梁市内の生物、地形、地質について理解を深めた。最終的には学んだことをポスターにしてまとめた。

野外実習として「成羽美術館と弥高山」「吹屋」「備中松山城」の3回実施した。

活動の成果・効果

地歴・公民の立場からも理科の立場からもそれぞれ地域に対する関心や理解が深まった。「高梁とわたし」では授業を通して地域の方と直接触れあうことで、自分の課題として地域のことを考えるきっかけとなった。生徒が自ら関心を持っていることについて調べ、レポートとしてまとめることで、地域の課題がより身近なものとして考えることができるようになった。

「高梁のしぜん」では地域の自然について知ることにより、高梁市の魅力について関心を持つことができ、野外実習で実際に見学することで、より身近なものとして認識できるようになった。



高梁市長による講演



地域おこし協力隊の方による講演



備中松山城周辺の見学



吹屋・笹敷坑道の見学

両科目を通して、レポートおよびポスターとしてまとめることで、地域について理解し、地域の課題について考察することができ、自らの問題であると感じ取れるようになった。

今後の課題と問題点

新型コロナウイルス感染症のため1ヶ月強の休校期間があった。授業を開始した当初での休校であったため、当初の計画より変更せざるを得ず、実施できなかった内容も多かった。特に「高梁のしぜん」では防災教育をメインの一つにあげていたが、十分なことはできなかった。

地歴・公民の教員と理科の教員が別々の授業で行っていたため、お互いの連携が不十分であった。地域の課題を見つけ、それを解決する方法を考える「高梁とわたし」、地域の自然についての魅力を認識する「高梁のしぜん」との連携を今後どうするかが「松山学」をより発展させるために必要となってくる。

「高梁とわたし」「高梁のしぜん」は授業として行っているため、毎年生徒が変わる。生徒の状況により必ずしも毎年同じ内容でできるとは限らない。

- 代表者：井上優 ●所在地：高梁市原田北町
- TEL：0866-22-3618
- E-MAIL：matsuyamako@sc.city.takahashi.okayama.jp
- URL：http://www.sc.city.takahashi.okayama.jp/matsuyamako/
- 設立年：2019年 ●メンバー数：5名